

今月のメッセージ (2013年4月)

日本銀行富山事務所長
佐子 裕厚

お金をいっぱい使っていますか？(2)

先日、魚津市で開催された講演会に行ってきました。(株)日本総合研究所の藻谷浩介主席研究員の講演で、「北陸新幹線開業の地元経済への影響と対策」がテーマでした。

藻谷主席研究員といえば、「デフレの正体」(角川書店、2009年6月刊)の筆者でもあります。「デフレの正体」では、1990年代から2006年くらいまでの日本の個人消費を分析した結果、生産年齢人口の減少と高齢者の増加が個人消費の趨勢的鈍化の原因だとされています。前月のこのコラムで私が書いた個人消費に関する分析と着眼点は同じで、現在の個人消費の「底堅さ」について慎重にみていく必要性を改めて感じました。

ところで、当地の個人消費について、皆さんは「強い」とお感じになっているでしょうか、「弱い」とお感じになっているでしょうか。

総務省の「家計調査報告」をみますと、2012年の富山市の勤労者世帯(2人以上)の消費性向(消費支出÷可処分所得)は59.9(年間平均)であり、全国都道府県庁所在地の中で最も低くなっています(全国平均は73.9です)。

これは、富山市の勤労者世帯(2人以上)の可処分所得が全国トップ(月間531,325円)となっていることも一因と思いますが、可処分所得が高い他の都市に比べても富山市の消費性向が際立って低いことを考えますと¹、やはり、当地の市民(県民?)は、消費活動に慎重な傾向があると考えるべきだと思います。

富山県の個人消費が全国に比べて弱い傾向があるのも、このあたりに原因があるのかもしれませんが。

ただ、子供の結婚費用への親の援助額は全国第2位(<株>ゼクシィ調べ、2011年)ですし、消費支出に占める耐久消費財への支出割合も全国第5位です(2011年)。当地では、消費にメリハリを付ける方が多いのでしょう²。

こうした中、市民一人当たりの鰯と昆布の消費額(2009年～2011年平均)は、富山市が全国トップです。これもお国柄なのだと思います。

以 上

¹ 可処分所得の高い上位10都市の消費性向を並べると以下のとおりです。富山市59.9、水戸市68.1、福島市65.4、さいたま市67.8、静岡市69.0、高知市74.7、高松市70.7、金沢市71.4、岐阜市67.1、大分市73.5。

² ちなみに、消費支出に占めるサービス支出の割合は全国第45位です(2011年)。